

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

2017年度 活動報告書

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

代表理事 田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org

tel. 0226-29-6514

fax. 0226-25-7523



目次

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業	5
1.1 2017年度の広がり	5
1.2 ソーシャルアントレプレナーの想い	6
1.2.1 稲田裕一郎×田中惇敏 対談	6
1.2.2 村松ももこ	11
1.2.3 半沢裕子	12
1.2.4 ニシャント・アンヌ	13
1.2.5 佐藤慶治	14
1.2.6 鈴木和海	15
1.2.7 尾形幸	16
1.2.8 小出悟	17
2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業	19
2.2 時旅ツアー	19
2.2.1 目的	19
2.2.2 内容	20
2.2.3 活動内容	20
2.2.4 活動写真	22
2.2.5 参加者内訳	27
2.2.6 参加者の声	29
2.2.7 感想	30
2.2.8 企画の反省	31
2.2.9 参加者推移	35
2.2.10 期間中の差し入れ	39
2.2.11 企画・期間中・企画後のスタッフ側の動き	39
2.2.12 インターンについて	42
2.2.13 広島大阪東京大同窓会	43
2.2.14 東京飲み会	46
2.2.15 参加後の参加者の投稿	46
2.3 女子旅	47
2.3.1 目的	47
2.3.2 ターゲット	47
2.3.3 ツアー詳細	47
2.3.4 参加費	47
2.3.5 スケジュール	48



2.3.6 参加者内訳.....	48
2.3.7 アンケート結果(回答者 21 名).....	49
2.4 運営組織.....	50
3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業	51
3.1 FAAVO 宮城 運営	51
4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業	52
5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業	53
5.1 講演活動.....	53
5.2 家庭教師.....	53
6. 取材対応	53
6.1 書籍出版.....	53
6.2 新聞、メディア.....	54
7. 収支報告	55
7.1 平成 29 年度活動計算書.....	55
7.2 事業別損益の状況.....	56
7.3 過去 4 年の助成団体のご紹介.....	56
8. 終わりに	57



みなさまへ

この度は、特定非営利活動法人 Cloud JAPAN の事業報告書をお読みくださり誠にありがとうございます。全国から応援してくださった多くの皆様のおかげで無事に2期目を終えられたことを心より感謝申し上げます。

29年度も私の故郷を襲った九州北部豪雨から始まり、様々な社会課題が山積されていますが、一方で、熊本・朝倉・東北を駆け回る1年の中で、ソーシャルアントレプレナーの増加により、ノウハウが共有され、ネットワーク化されたことにより、過去の事例をもとに迅速な課題解決の手法が広がってきているように感じます。私たち人類は、ソーシャルアントレプレナーのリーダーシップのもと着実に歩を進めてきています。

今年度は、弊法人に関わってくれているソーシャルアントレプレナーの「人」の部分にフォーカスを当て、活動と思想をまとめるとともに、お金や失敗など汚い部分まで徹底して開示しました。この報告書自体が今後の挑戦に繋がることを期待してはじめのご挨拶とさせていただきます。

昨今、お金ではない新しい社会の価値観が生まれようとしていることは自明となってきました。10年、20年、50年先を見つめた課題解決の手法をソーシャルアントレプレナー丸となって協創して参りますので引き続きご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

(代表理事：田中惇敏)

事業名	事業内容	実施予定日	実施予定場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費(千円)
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場づくり支援事業	全国の空き家をその地に合った場所と価値を創造する。	29年4月1日～ 30年3月31日	宮城県内外各地	12人	県内外のソーシャルアントレプレナー及びその関係者 延べ10人	300
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場の運営支援事業	気仙沼ゲストハウス“架け橋”を運営する。	29年4月1日～ 29年3月31日	宮城県 気仙沼市	10人	県内外の住民1,500人	14,897
ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業	クラウドファンディングFAAVO宮城の運営を行う。	29年4月1日～ 29年3月31日	宮城県内	3人	宮城県内のソーシャルアントレプレナー及びその関係者 延べ20人	324
地域で活動するソーシャルアントレプレナーにかかわる情報発信事業	クラウドイノベーションによる情報発信を行う。	29年4月1日～ 29年3月31日	宮城県内外各地	5人	県内外の住民2,000人	0
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者の育成および事業促進のための教育支援事業	講演活動、地域における家庭教師、塾事業を行う。	29年4月1日～ 29年3月31日	宮城県内外各地	2人	県内外の住民100人	426



1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業

1.1 2017年度の広がり

2017年度は全国の下記3軒の空き家を新たに運用し活動を始めた。

宮城県：気仙沼シェアハウス“つんとぼり”、

東京都：CARAVAN Flake

大分県：大分ボランティアハウス鶴の恩返し



一方、ニーズの変化から、めいかーずハウス in 押上（東京）、めいかーずハウス in 沼袋（東京）を今年度中に閉鎖、熊本ボランティアハウス山麓園（熊本）、大分ボランティアハウス鶴の恩返し（大分）を来年度中に閉鎖予定、仙台ゲストハウス KIKO（宮城）を来年度中に移転予定となっている。

1.2 ソーシャルアントレプレナーの想い

1.2.1 稲田裕一郎×田中惇敏 対談



稲田裕一郎（山麓園/鶴の恩返し 代表）×田中惇敏（架け橋 代表） 対談

2018年5月27日熊本県西原村内カフェ「樂や」にて

田中：稲田さん、今日はよろしくお願いします！

稲田：こちらこそよろしくお願いします。

田中：稲田さんは熊本地震の直後から被災地に入り、西原村の災害復興支援をしながら「熊本ボランティアハウス山麓園」の代表を2年間務め、平成28年の九州北部豪雨水害では被災した大分県日田市にいち早く駆け付け土砂かきをしながら「大分ボランティアハウス鶴の恩返し」の設立と運営も行なっていただきました。

今日は被災地でボランティアのための宿の運営と日々災害復興支援ボランティア活動をされた経験から感じたことをお伺いできればと思います。

田中：まずは今の活動を終えられた率直な心境を教えてください。

稲田：被災地はまだ支援は必要で本当は何も終わっていないと思っています。

もう1年くらい前からボラが出来るようなニーズは縮小しており、この場に居続けても違う気がしたので1年くらい前にこれぐらいで帰ることを決めました。

田中：それでは、まだまだ不完全燃焼なんですか？

稲田：復興の中では、行政と被災者の手の届ききれない部分を補助的に支援する、あくまでオプション的に私たちボラの人間がいます。

その活動の中で多くの達成感を得てきたのですが、今はこの復興による喜び（自分が動くことで街や家族が復興していくことの喜び）をボラが少しうばっている気がします。復興後のまちづくりを考える上でもこの「達成感」（自分が動くことで復興したという喜び）を大切にして欲しいと思うようになりました。

田中:そういう意味では、あくまでポジティブな不完全燃焼感なんですね。



（南阿蘇の様子。「達成感」への道のりは、まだまだ長いであろう。）

田中：稲田さんは、これまで山麓園利用のボランティア 3,000 人の人たちと向き合い続ける 2 年でした。その中には 2 名の方が熊本に移住したり、山麓園での出会いがきっかけで 9 月に結婚される方もいると聞いています。

そんな経験から、なぜボランティアは被災地に来たと思いますか？

山麓園に来た子達が被災地へ行く理由とはなんだと思いますか？

稲田：本人にもよくわからないまま、ただ助けたいという一心で来てる人が多いように感じました。被災地へ向かう道中それぞれに不安を抱えながら被災地へ向かったと思います。

田中：被災地に行ったら不安の答えが見つかると思った？

稲田：いや、その不安を探しに来てるわけではないけど、普段自分が社会の中で日々給料が与えられ社会保障があり経済と流通が与えられて生きているけど、それがあまりに当たり前に提供され続けると生きている実感がわからなくなってくる。生きているのか、生かされているのか。災害が起こった時、私はこんなにも安全な社会に支えられているのに社会が崩壊した中で自分だけ大丈夫でいいのか、そんな潜在的な漠然とした不安を抱えながら被災地に来ていると思います。

田中：自分に生き場を与える社会って本当に大丈夫なのかっていう確認かも。

稲田：そうそう。社会に包み込まれていたら外から確認できないし、社会から出る、つまり行政が崩壊し、救急車も道路も無く、物流もない、コンビニもない被災地でという不安。

もちろん潜在的無意識的な不安だけど。

田中：その通り無意識！その無意識が、意識化されるとあまり普通の道を歩かなくなるんだろうなあと考えていて、私はそうでした。普通に大学生、卒業、就職の危うさを気仙沼が教えてくれたと思います。山麓園のみんなは将来に対する気づきがあった、というのは、被災地と支援者がお互いに「頼って、頼られて支え合い」の関係が生まれたという意味でとっても良かったと思いますね。

稲田：山麓園はたまたま山だったから。震源地から距離もあったし、そこから一旦避難できる立地も良かったと思います。

田中：今後の被災地におけるボランティア宿の立地と思想を考える上でも参考になります。



(毎晩遅くまで真剣に話し合う声が聞こえていた。)

田中：私もよく聞かれますが、「なんでボランティアとして"気仙沼"に来たのか」。いくら考えても運命としか言えないんですね。稲田さんはなぜ熊本にボランティアに来たのでしょうか。

稲田：親戚の家の手伝いをしたいという感覚でした。もちろん実際の家族というわけではないですが、九州みんな親戚みたいな感じですが。

田中：不思議な感覚ですね！いま、私も実家にいるんですが実家の手伝いはしないんですけど。

稲田：それはしょうがないと思います。

日本は家が狭くて家族の距離が近過ぎるから両親や兄弟はどうしても汚い側面まで嫌でもわかってしまう。愛情表現したくても距離が近すぎて照れ臭いのはわかる。親孝行という形でダイレクトに言葉で表現できない。でもそのために母の日とか活用して欲しいとは思うけどね。

身近な人ほど実は助けるのは難しい。

田中：そういう意味での親戚なんですね。しっくりきたのでこれから使わせてもらいます！



（終始、笑顔の溢れるボランティア活動であった。）

稲田：災害の支援活動とは生き方として手伝わないといけない。

そして、同様に辞め方を自分で決めないといけない。おそらく田中さんの活動を通して一命をとりとめている人達は相当いると思う。その人たちは子どもが生まれたときに私たちの家族があるのは田中さんのお陰でと言われて育つ子達がいるんじゃないかと思います。

田中：山麓園もそういう意味では移住者や結婚まで生まれ、脈々と引き継がれるものがあると思いますよ！



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

9 / 58 ページ

稲田：災害で何百万人が被災して、そのうち何万人が家や家族を失い、そのうち何千人が助けを必要としていて、そのうちのはたして何人の人たちを助けられたのか、そういう数値的な計算は感情とか人間っぽい部分を表現するのには適さない。田中さんがやっていることは災害があまりにも大き過ぎて微力しか助けられない。仮設団地やみんなの家のイベントや物資配布は9割の被災者は助けられていないのに、それを数値的に定義する意味はなんなんだろうと思う。

田中：本当にその通りですね。そしてボランティア活動の終わらせ方やゴールの設定は難しいですね。

稲田：最後の最後の人まで助けたい。でも最後の方は数字では説明できない。

助けたい思いはあるけど、いつまでも続けられないからどこかで引く決断をしなければいけない。最初の全部がひっくりがえってパニックでしかなかった災害直後の状況から、徐々に整然とし始めなんとか立ち上がり、今度は災害と向き合った新しい地域のあり方を模索し始めている。それを尊重して自分は引き。そしてこれからまた新しくかつ災害前の文化や地域性も引き継ぎどんな風に発展していくのがとても楽しみです。

田中：今日は本当にありがとうございました。

稲田：災害に負けない防災のあり方については終わりはありません。正解はひとつではなくあらゆる選択肢や可能性も考えていく必要があります。これからも組織を越えて社会全体で協力してみんなで防災について考えていく必要があるでしょう。ありがとうございました。



(最後は封鎖に向けて最後の片付けをした山麓園の前で。)

1.2.2 村松ももこ

むらまつももこ（27）

1、現在どんな活動をしているか？

夜は気仙沼ゲストハウス架け橋の代表、
昼間は絵本カフェの運営を行っています。
ゲストハウスは観光客と地元の人との交流の場となり
絵本カフェは地域のお母さん達の雇用の場となっています。
この事業で得た利益は地域に還元したいと考えて日々活動を行っています。



2、架け橋と出会ってどう変わったか？

代表という立場となって当時の代表田中が経験した苦労を感じようになりました。メール1本返すことへの労力や挨拶回りの気遣いなど「感じることのなかった苦労」を感じています。横浜で看護師をしていた時には出会うことが少なかった自分の町の未来を真剣に考える人や自分の人生でやりたいことが明確な人に出会うことが多かったことも印象的です。自分が移住した背景には架け橋やボランティアを通して気仙沼へやって来る看護師時代には出会うことのなかった人たちの影響が大きいですね。

3、これからどうしていきたいか？

誰かの「やりたい」をサポートしたいと思っています。
個人の成長につなげたり、やりたいことを見つけてあげたりするのでなく「その人が楽しいかどうか」を大切にしたいですね。何ができるかではなく「誰がやっているか」に目を向けることで自分の行動するモチベーションにつながるので架け橋としても個人としても誰かを支えて、やりたいことをサポートする役割を担っていきたいです。



（一人一人を大切にする村松氏を慕って、様々な地域から多世代が集まり、交流が深まっていく）



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514

Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

11 / 58 ページ



1.2.3 半沢裕子

はんざわ ゆうこ (34)

1、現在の活動

絵本カフェ架け橋の代表を務めています。

絵本カフェは、子育てをする母親達の居場所と気仙沼の子育て支援事業となるように活動しています。

2、架け橋と出会ってからの変化？

架け橋に来る前は震災の影響で社会参加をしている実感が少なくなかったな。積極的に活動を行い、何かを楽しむことを避難生活の中で介護や子育てに追われる中で一度遮断されてしまったんだよね。

絵本カフェに来てからは自分の存在が誰かの役に立っていると感じる瞬間が増えて毎日が楽しいよね！

子育てに関する情報交換の場や誰かのやりたいことを企画にするイベントの企画、運営などチームとしてみんなで何かをする感覚を取り戻すことができ充実しているよ！

3、これからどうしていきたいか？

子育てを終えたお年寄りの人や子供がいない夫婦の方やゲストハウスへ宿泊して来た人たちにも利用してもらい、母親達だけでなくみんなの居場所として絵本カフェを運営していきたい。

あとは隣に絵本カフェの近くに小学校があるので児童館としての機能も絵本カフェにつけることができたらと考えている。



(ベビーマッサージでは母向けにもマッサージが行われる。運営も子育て世代だからこその配慮。)



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514

Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

12 / 58 ページ

1.2.4 ニシャント・アンヌ

にしゃんと あんぬ (25)

アメリカニューハンプシャー出身。ALT として気仙沼に2年間赴任した後に半年間の帰国を経て2017年6月から気仙沼へUターン。現在は気仙沼観光コンベンション協会でインバウンド事業に携わっている。



1、現在どんな活動をしているか？

気仙沼観光コンベンション協会の職員として旅行商品を作っている。

旅行商品は具体的にいうと気仙沼を観光する人のニーズに合わせたプランをツアーに組み込んで観光客に気仙沼を楽しんでもらうようなものかな。

2、架け橋と出会ってどう変わったか？

一番は架け橋と出会ってからいつでも帰れる居場所 ”ホーム” ができたことかな。

自分のホームができたから気仙沼の人との繋がりがより強くなったし、気仙沼ライフをもっと楽しめるようになったよ！！

あとゲストハウスに対する見方も変わったな。

前はよくゲストハウスに泊まってたんだ。思うような交流ができないことが嫌でエアビーに変えたんだ。でも架け橋に来てからゲストに気仙沼の飲食店を案内するスタッフや地元の人たちと作り出すアットホームな雰囲気を感じる中でゲストハウスに対するイメージはよくなったよ。

初めて行った場所なのにアットホームな雰囲気を出している架け橋は自分の理想とする空間なんだ！

3、これからどうしていきたいか？

架け橋と世界をつなぎたいね！

まだ架け橋に来る外国人は少ないし俺の大好きな気仙沼の人たちの魅力を伝えていきたい！

架け橋が外国人にとって気仙沼を訪れるきっかけとなるような活動を続けていきたいね！！



1.2.5 佐藤慶治

さとう けいじ (24)

宮城県南三陸町出身。高校3年生の時に東日本大震災を経験。被災した故郷のためにスポーツでのまちづくりを志し、大学生の時にフィンランドへ1年間の留学。現在、南三陸町観光協会に勤めながら、スポーツサークル「あくていぶ」を主宰している。

1、現在どんな活動をしているか？

南三陸町観光協会でガイドコーディネーターを担当しています！さらに「生涯スポーツサークル「あくていぶ」の部長を務めて地域でスポーツを行う場づくりを行なっています！実は運動音痴な自分ですがそれを逆手にとって気軽に楽しめる場所を作っています！

あくていぶでスポーツを楽しむことで参加者に地域で「より良く生きること」を実感してもらいたい

ですね。

2、架け橋と出会ってどう変わったか？

今、自分の活動に関わっている人たちの多くは架け橋に来てから出会ったんですよね。

最近、恩返ししていききたいとか受けている影響が多いなと感じることが多いですね。

特にアツさん（代表理事：田中）の起業している姿を間近で見ることが自分の活動に大きな影響を与えています。架け橋はあくていぶを形作るきっかけとなった場所です！！

3、これからどうしていきたいか？

スポーツを通じてまちづくりを行い、南三陸で生きていきたいですね！

でもスポーツはあくまで手段でしかないので周りの力を借りつつ自分の得意なことをまちづくりに活かしていく。

そうした一歩が町の発展や生涯スポーツの発展につながることを夢見ています！！



（南三陸町で開催されたビーチアルティメットの大会の様子）



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514

Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

14 / 58 ページ

1.2.6 鈴木和海

すずき かずみ (28)

静岡県浜松市出身。ボランティアで出会った気仙沼市の方との結婚を機に気仙沼市に移住。今は、3歳になる1児の母。



1、現在の活動や仕事は？

絵本カフェとゲストハウスのサポートをしています！具体的には事務作業やイベントの運営で休日は夫のサーフショップを手伝っていますね。

2、架け橋に来てからの変化は？

一番はサーフショップのコミュニティ以外で気仙沼の知り合いが増えたことです！普通に生活していたら関わることのなかった人たちと関わる事ができて生活に変化が生まれました！

あとは絵本カフェで働く他のママたちの存在も自分にとっては心強いですね、同じ子育て経験をした人が身近にいる環境も架け橋に来てからの変化だと感じています。

3、これからどうしていきたいか？

夢は「サーフショップで託児を行うこと」！

その結果、育児でサーフィンや海に来ることを諦めている人が海で遊ぶことを諦めない未来を夢見ています！絵本カフェの仕事を行う中で現場感や収益の流れなどを勉強して自分の夢がより身近になったと感じています。

そして家族が健康に暮らしながら周りの人たちと楽しく過ごしていきたいですね！



(イベント出店した時の様子。一番左が和海さんで、その左が夫。さらにその左が半沢家の夫。男手が必要な時は、みんなの家族が一丸となる。)



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

15 / 58 ページ



1.2.7 尾形幸

おがた ゆき (29)

宮城県気仙沼市出身。絵本カフェにオープンスタッフとして立ち上げの時期から勤務している。いつも元気な2児のママ。

1、現在どんな活動をしているか？

絵本カフェのスタッフをしています。

主にイベントの企画運営や飲食業務や会計管理などを行っています。

高校で情報を勉強して職場も医療事務だったから事務作業が多かったけど最近はイベントの運営などお客さんと接する機会も増えました。

2、架け橋と出会ってどう変わったか？

結婚してから絵本カフェに来る前は引きこもることが多かったね。

子育てをしていたり、家事に追われていると家の中にいることになるけど外に出ないと

育児の悩みを相談できる相手もないしストレスを抱えていて心の余裕もなかったよ。

絵本カフェに来てからは周りの目を気にしなくていいアットホームな環境を見つけて

育児の悩みを相談できるママ友達もたくさんできた。

子供を連れて外に出ることができる場所を見つけて生活と気持ちに余裕がまれたことを感じているよ！

3、これからどうしていきたいか？

「絵本カフェとして託児をやりたいかな」

下の子供を預けて上の子供の学校行事に参加したいしそのためには誰かに預けるか子供を抱えたまま移動しなきゃいけないからね。あと感じるのは子どもを預けて一度離れることで日々のストレスから解放されて子どもに対する愛情が一層深くなることもあるんだ。だから託児をやりたい！



1.2.8 小出 悟

こいで さとる (25)

1、現在どんな活動をしているか？

ゲストハウス架け橋の運営スタッフ。

主にイベント、飲食、宿泊業務と情報発信を行っています。
他にも気仙沼以外の三陸沿岸地域の活動に積極的に参加しています。



2、架け橋と出会ってどう変わったか？

架け橋に来る前は自分が何をしたいのか

どうありたいのかを考えずに日々を過ごしていました。

東北の支援目的で来たものの自分の人生の目的は分からずに
これからどうしたらいいかを悩んでいましたね。

架け橋に来たあとで自分の可能性に気づき

自分のやりたいことを自分の意思で行動に移すようになりました。

架け橋は自分の可能性を引きだしてくれた場所です！

3、これからどうしていきたいか？

自分自身が可能性を引き出されたように

被災地と呼ばれている三陸沿岸の可能性を模索したい。

まだ会ったことのない人やゲストハウスのようなコミュニティと
繋がり協業の関係性を結ぶことのできる仕掛け人になりたいです。

4、報告書編集後記

今回、報告書のインタビューを担当させていただきました Cloud Japan 理事の小出です。

このインタビューを通して感じたことを書いていきます。

取材した人は普段身近で活動をしている人たちなので活動内容は理解しているつもりでした。

しかし実際に取材していると強い想いの部分であったり、特定の人に対する感謝の気持ちだったり
と日常の会話では省略されてしまうような言葉がたくさん出てきました。

例えば絵本カフェのお母さんたちとは、長時間にわたって話を聞くことは少なかったので子育てに
対する苦労や震災当時からの生活の話を書くとても貴重な機会でした。

子どもを連れて働くことができる絵本カフェという場所が見つかるまでは、公共の場所では安らぐ
ことができず、飲食店では味わうこともできずに足早にお店を後にするなどのエピソードはインタ
ビューを通して初めて聞いた子育てのリアルでした。

そうした本音や相手の知らなかった一面を知ることができるインタビュアーという役割が自分は
とても好きなのだという自分自身の意外な一面にも気付くことができました。

インタビューの想定時間は一人当たり30分程度で考えていましたが、全員が時間を大幅に超えて
しまうというくらい、想いや感情が溢れ出した時間でした。

その一方でたくさんの想いや興味深い内容を言葉にまとめる難しさも実感しました。

相手は何を伝えたいのか？

この部分は省略してもいいのか？

など報告書という短い枠の中にインタビューの内容を収める苦労も味わいました。

人の話を聞いて対話を通して深めた後で文書にまとめる。

この一連の流れを行なったことで相手との距離が縮まった実感を持つことができたとても貴重な
時間でした。

自分は震災後に地元新潟から東北へ移住をしてから故郷では出会うことのなかった人との出会い
をたくさん経験してきました。そしてゲストハウス架け橋のある気仙沼をはじめとした三陸沿岸に
はまだまだ多くの出会っていない人がいます。

そんなこれから訪れる出会いの価値を最大限に生かしていく方法の一つが今回行なったインタビ
ューだと考えています。人との出会いから想いや価値観を引き出して自分の力にも変えていく。

それが三陸沿岸の可能性にも繋がっていく。

これからも Cloud Japan という組織周りの人間だけでなく、自分と同じように震災をきっかけに移
住をして自分独自のライフスタイルを送っている人や自分たちと同じ若い世代で起業を考えてい
たり、活動を続けている人にインタビューを行なっていきたいです。

その一步一步がお互いの理解を深めてそれぞれの人生を前に進めていくと信じてこの報告書の編
集後記とさせていただきます。



2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業

(1) みなさまへ

この度は報告書を手にとってくださり誠にありがとうございます。「被災地から第二のふるさと気仙沼」という目標を掲げ、旅館業としての運営を始めて1年が経過しました。当初は旅行客が気仙沼を好きになり、何度も戻ってきて欲しいと思い架け橋を始めました。

現在は旅行客はもちろんのこと、地元の方にも愛される場所となり、地域の母子、若者、移住者、おんちゃん達と様々な世代が集い、笑い声が絶えず聞こえるようになりました。そして架け橋から小さな挑戦が起こり、架け橋で出会った人々が繋がり、新たなコミュニティも多く生まれました。地域との繋がりが強くなり、大変ありがたいことに、様々な地域のイベントに声をかけてもらったり、連携の話をいただくようになりました。架け橋としてできることの可能性が広がった1年でありました。

2018年度は「架け橋としてやるべきことは何か。」をもう一度見直し、揺るぎないビジョンのもとに活動していく年にしていきたいと思っています。様々な可能性がある中で、架け橋としてやるべきことは、全ての人の心の拠り所になることだと考えています。

旅行客、母子、移住者、若者、地域のおんちゃん。そのひとりひとりが心を休め、楽しみ、悩みを相談できる。心から安心できる場所へと成長していきたいと思っています。

いろいろな場所からの船を受け入れ、風や波をしのぐ安全な気仙沼港。その「港」のように、誰でも来ることができる場所でありながら、どんな時も安全・安心していただける場所へと成長していきたいと思っています。

気仙沼ゲストハウス“架け橋”代表 村松 ももこ

2.2 時旅ツアー

2.2.1 目的

東日本大震災から7年目を迎え、震災のことをメディアで聞く機会がほとんど見られなくなりましたが、現在でもまちづくりに向けて等、地域にある課題はまだあります。また、気仙沼には地域の人柄や食など魅力的な部分はたくさんありますが、その部分に触れられず、また来たいと思ってもらえずに帰ってしまう方もおられます。

そこで本団体では

- ・震災当時や現在のことを知ることで震災に関しての関心を持ってもらう。
- ・気仙沼の魅力を知ってもらい、被災地としての暗いイメージではなく気仙沼という明るいまちという印象を持ってもらう。
- ・気仙沼を好きになり、定期的に気仙沼を訪れてくれるような若者を増やす。

の3点を目的として活動しました。



2.2.2 内容

(1) 期間

第1ターム：8月20日～8月23日

第3ターム：9月3日～9月6日

第4ターム：9月10日～9月13日

第5ターム：9月17日～9月20日

第6ターム：9月24日～9月27日

(2) 費用

一般：25000円 大学生：23000円

内訳

宿泊（3泊分）	10500円
漁師体験	6000円
語り部	3000円
まち歩き	2000円
マイ井	1500円
計	23000円

2.2.3 活動内容

(1) 語り部

地元の方をお呼びして震災当時のお話をさせていただきました。その後は語り部さんと共にご飯を食べ、交流しました。

(2) まちあるき

階上地区を歩いて回り、震災から7年目の現在の姿を知ってもらうとともに、気仙沼ならではの体験をすることで気仙沼の魅力を知ってもらいました。

- ・ 地元の人との交流
- ・ 旧向洋高校など震災の跡地を巡る
- ・ 塩づくり体験
- ・ イチゴ農家 階上で行っている気仙沼いちごについてのお話
- ・ NPO法人はまわらす 漁師体験、地元の食材を使ったご飯づくり
- ・ 藤田商店 漁師体験、地元の食材を使ったご飯づくり

まちあるきスケジュール

12:27

2%

15:17

47%

14:04

72%

まちはあるきスケジュール.xlsx

戻る まちはあるきスケジュール.xlsx

戻る まちはあるきスケジュール.xlsx

Sheet1

Sheet2

Sheet3

			内容	所要時間	
			8:30 ~ 8:50 架け橋→ふれあい館	20	
			8:50 ~ 9:10 大和田さん	20	
			9:10 ~ 9:20 ふれあい館→大家さん	10	
			9:20 ~ 10:00 大家さん	40	
			10:00 ~ 10:25 大家さん→向洋高校	25	
			10:25 ~ 10:45 向洋高校	20	
			10:45 ~ 11:00 向洋高校→ドライブイン	15	
			11:00 ~ 11:50 ドライブイン	50	
			11:50 ~ 12:10 ドライブイン→岩井崎	20	
			12:10 ~ 12:15 岩井崎	5	
			12:15 ~ 13:05 塩づくり体験	50	
			13:05 ~ 13:25 岩井崎→慰霊碑	20	
			13:25 ~ 13:35 慰霊碑	10	
			13:35 ~ 13:50 慰霊碑→イチゴ農家	15	
			13:50 ~ 14:20 三浦さん	30	
			14:20 ~ 14:30 イチゴ農家→クリエ	10	
			14:30 ~ 15:00 クリエ→花浜	30	
			15:00 ~ 花浜		

Sheet1

Sheet2

			8:30 ~ 8:50 架け橋→ふれあい館	20	
			8:50 ~ 9:15 大和田さん	25	
			9:15 ~ 9:35 ふれあい館→近藤さん	20	
			9:35 ~ 10:15 近藤さん	40	20震災
			10:15 ~ 10:40 近藤さん→向洋高校	25	
			10:40 ~ 11:05 向洋高校	25	
			11:05 ~ 11:25 向洋高校→ドライブイン	25	
			11:25 ~ 12:25 ドライブイン	60	
			12:25 ~ 12:30 ドライブイン→慰霊碑	5	
			12:30 ~ 12:40 慰霊碑	10	
			12:40 ~ 13:10 慰霊碑→塩づくり	30	
			13:10 ~ 14:00 塩づくり	50	
			14:00 ~ 14:10 岩井崎	10	
			14:10 ~ 14:40 岩井崎→イチゴ農家	30	
			14:40 ~ 15:10 三浦さん	30	
			15:10 ~ 15:20 イチゴ農家→藤田商店	10	
			15:20 ~ 藤田商店		

第1ターム

第3ターム

第4ターム

8:30 ~ 8:55 架け橋→近藤さん

8:55 ~ 9:45 近藤さん

9:45 ~ 10:00 近藤さん→向洋高校

10:00 ~ 10:20 向洋高校

10:20 ~ 10:40 向洋高校→慰霊碑

10:40 ~ 10:50 慰霊碑

10:50 ~ 10:55 慰霊碑→ドライブイン

10:55 ~ 11:55 ドライブイン

11:55 ~ 12:20 ドライブイン→イチゴ

12:20 ~ 12:50 イチゴ農家

12:50 ~ 13:30 イチゴ→岩井崎

13:30 ~ 14:30 塩づくり

14:30 ~ 14:40 岩井崎

14:40 ~ 15:20 岩井崎→杉之下漁港

第5ターム

8:30	～	8:55	架け橋→近藤さん	
8:55	～	9:45	近藤さん	
9:45	～	10:00	近藤さん→向洋高校	
10:00	～	10:20	向洋高校	
10:20	～	10:40	向洋高校→慰霊碑	
10:40	～	10:50	慰霊碑	
10:50	～	10:55	慰霊碑→ドライブイン	
10:55	～	11:55	ドライブイン	
11:55	～	12:20	ドライブイン→イチゴ	
12:20	～	13:00	イチゴ農家	
13:00	～	13:40	イチゴ→岩井崎	
13:40	～	13:55	岩井崎	
13:55	～	14:55	塩づくり	
14:55	～	15:35	岩井崎→杉之下漁港	

第6ターム

(3) 漁師体験

地元の漁師さんをお願いして、漁師体験をさせてもらったり、漁師さんと一緒にご飯を作ったりしました。

(4) 工場見学

水産加工場に行き工場見学をさせていただきました。商品がどのように作られているかだけでなく、震災当時から再稼働するまでの過程などのお話をお聞きしました。

- ・横田屋本店
- ・株式会社カネカシーフーズ
- ・マルトヨ食品株式会社
- ・気仙沼ほてい株式会社



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

21 / 58 ページ

(5) マイ井

1人1000円で気仙沼の食材を買い、どんぶりにして食べる「マイ井」という企画を行いました。

2.2.4 活動写真

語り部

鹿折地区で被災した半沢さんが当時の状況を話す。

参考リンク（話された内容）：<https://taliki.org/archives/528>



まちあるき

震災遺構の案内（向洋高校）



地元の方のお宅訪問



気仙沼イチゴ農家の訪問



岩井崎塩づくり体験



漁師体験 たこカゴ漁体験



漁師さんのご飯づくり



工場見学

マルトヨ食品株式会社



株式会社カネカシーフーズ



マイ井
食材選び（魚の駅）



マイ井づくり



2.2.5 参加者内訳

参加人数 52 人（1 日、2 日参加も含む）

全日参加 32 人

参加者平均年齢 22.5 歳

第 1 ターム 全日参加：3 名 2 日間参加：1 名 1 日参加：4 名

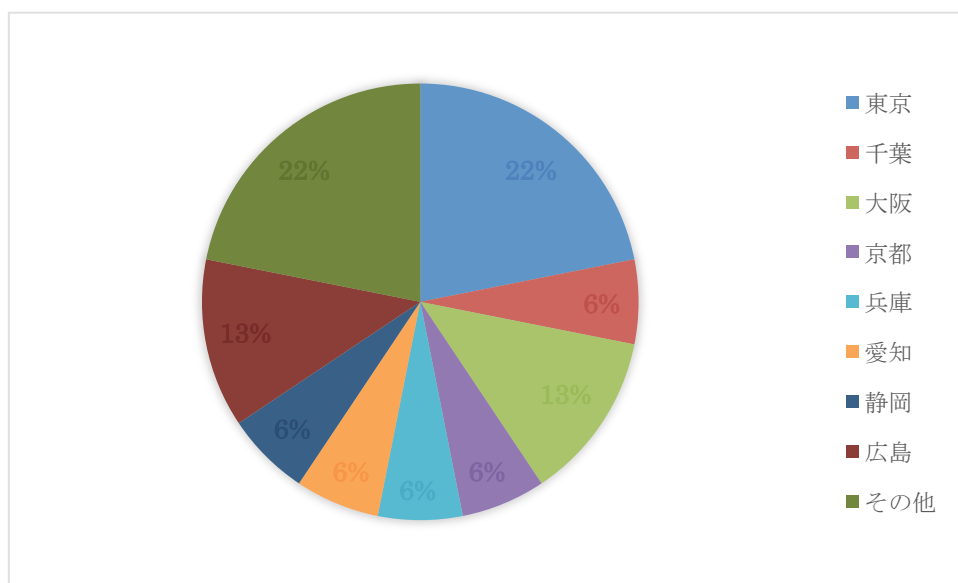
第 3 ターム 全日参加：9 名 1 日参加：4 名

第 4 ターム 全日参加：7 名 2 日間参加：1 名 1 日参加：4 名 インターン：1 名

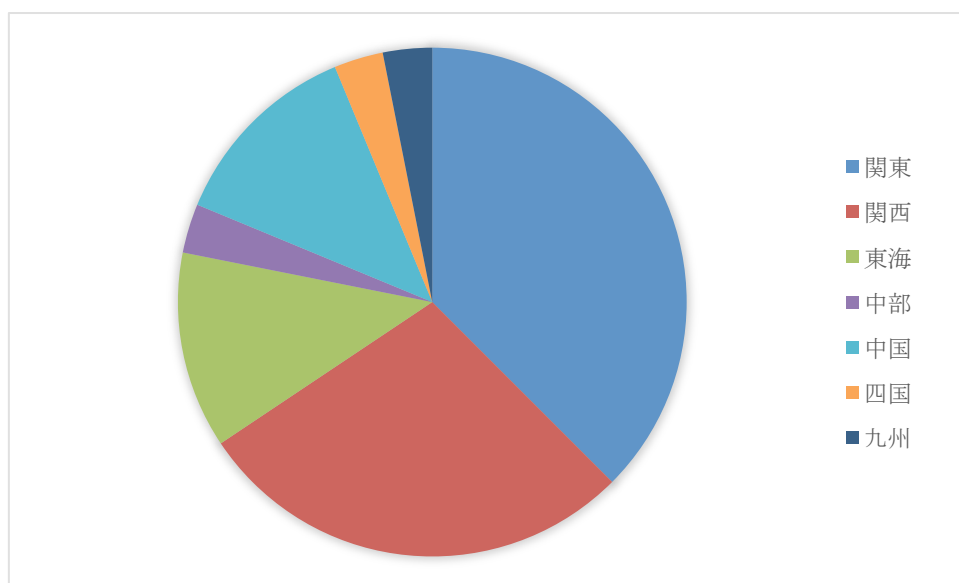
第 5 ターム 全日参加：9 名 1 日参加：2 名 インターン：4 名

第 6 ターム 全日参加：4 名 2 日間参加：1 名 1 日参加：1 名

県別



地方別

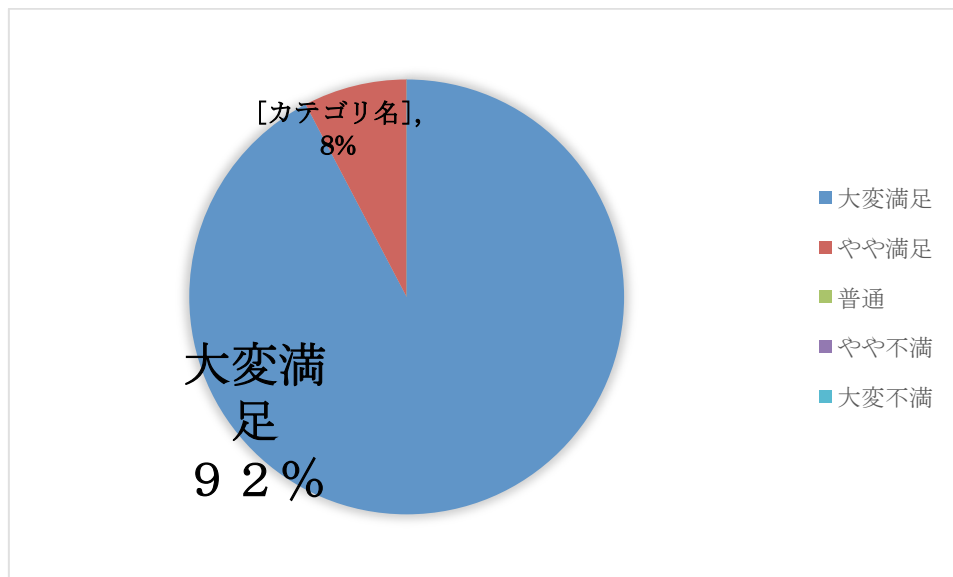


2.2.6 参加者の声

(1) アンケート結果

アンケート回答者 26名 対象者：企画全日参加者（第3ターム～第6ターム）

今回の企画はいかがでしたでしょうか。次の選択肢より1つお選びください。



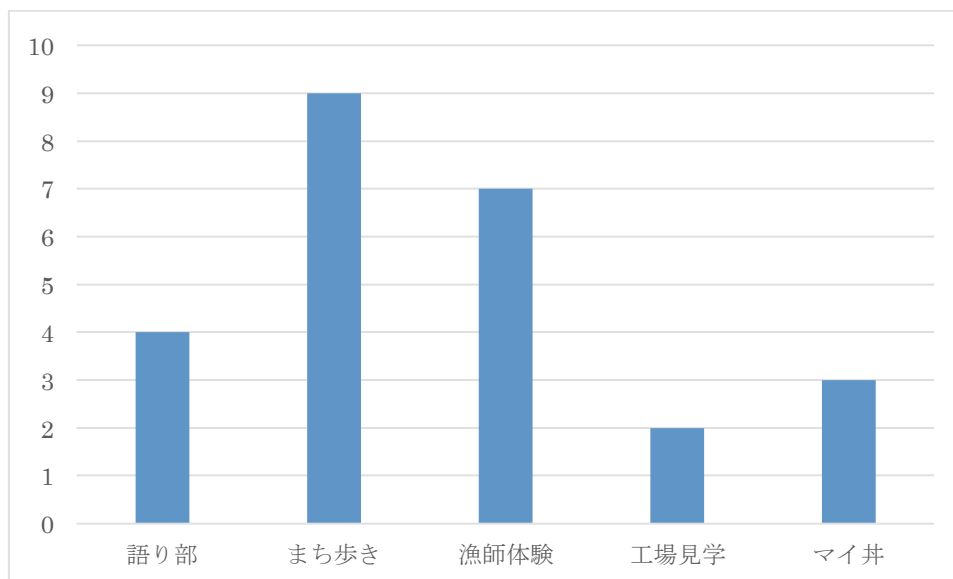
100点満点中何点？

平均点 100点満点中

101.8 点



一番良かったと思う企画に○をつけてください。



2.2.7 感想

(1) 語り部

- ・語り部さんのご本人の生活に密着した生の声を聞くことができたため、震災当時の状況をよりリアルに感じることができた。
- ・子育てをする保護者のお話を伺う機会はあまりないので、これまで気づけなかったことを気づけたり、貴重な経験ができてよかったです。
- ・地元の人と近い距離で話せるのが良かった。

(2) まちあるき

- ・町の魅力が伝わってくる企画。岩井崎には感動した。
- ・壊れた建物を見たり、様々な方のお話を聞くことでいろんな角度から気仙沼を知れました。
- ・住民の方々との交流で気仙沼との距離が縮まった

(3) 漁師体験

- ・そのまま料理を一緒に作り、お話を聞きながら一緒に食べたりという一貫の体験がすごくいいと思いました。
- ・震災の部分だけにフォーカスを絞らず、気仙沼の海産物の豊かさやおいしさを知れたことで街の良さを純粋に楽しむことができました。
- ・たこがかかった時はめっちゃテンション上がりました！美味しかった～

(4) 工場見学

- ・被災地の食がどのようにできているか、その流れを見ることで安心感が得られるだけでなく親しみを持てるようになった。
- ・巨大な冷凍庫の中にはいたり、商品を製造している過程における様々な設備を見られてよかった。
- ・蛇口からめかぶが出てくるのが面白かったです。



(5) マイ井

- ・みんなで考えながら作ったご飯はとてもおいしかった。一体感が生まれた。
- ・どれもおいしくてお腹が幸せでした。
- ・気仙沼の魅力がつまったおいしい井ができて楽しかったです。

(6) 活動全体

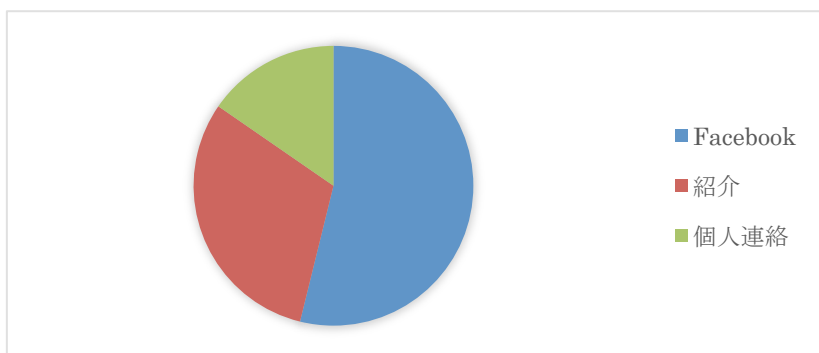
- ・ただ一言最高でした！普通の旅行ではこんなに地元に着した活動も、仲間との絆も、ゲストハウスのおもてなしも生まれないと思います！これからも頑張ってください！また来ます。
- ・自分の足で歩いて直接地元の方のお話を聞く機会がたくさんあったことで、何が起こったのかをリアルに自分なりに感じられたと思います。気仙沼のいいところも見つけられて、とてもいい旅でした。
- ・震災のことを少しだけ知れてよかったし、何より気仙沼の人の人柄が良くて好きで、また来たいなと思いました。
- ・学ぶことがたくさんあって、考えさせるものばかりでした。このような活動に参加したい学生はたくさんいると思うので、ぜひ継続して行ってほしいです。

2.2.8 企画の反省

(1) 広報戦略

実際に行った広報戦略

- ・Facebook
- ・twitter
- ・メーリス
- ・協力者のシェア
- ・喜多（当法人 理事）のシェア
- ・個人連絡



(2) Facebook

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」先行予約開始！！】

スタッフの伊藤です。満を持して6月1日に17年の夏企画がリリースしました！時を旅するということで、被災地の震災当時から現在に向けてを知ることができる内容となっております。

被災地では現在ボランティアのニーズが高まっております。しかし、気仙沼にはおいしい海の幸や地元の人々の温かさなど魅力的な部分がたくさんあります。被災地のことを知りながら気仙沼の魅力に触れこの夏1番の思い出を気仙沼で作ってください。... もっと見る



6230人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

96 トップコメント

シェア22件

コメントする...

岸田 裕子 被災地、気仙沼の今を知りたいツアーとなっています！ぜひ！おすすですぜひいらしてください！(笑)

いいね！ 返信 メッセージ 2 6月2日 9:23

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」追加情報1】

スタッフの伊藤です。6月にリリースを開始した夏企画「被災地の時を旅する4日間」の内容をこれから少しずつご紹介していきます！！... もっと見る

本日はツアーの内容を毎日ご紹介していきます！！... もっと見る



4017人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

気仙沼ゲストハウス"架け橋"さん、幸寺 均彦さん、熊谷 清輔さん、他61人

シェア13件

コメントする...

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」追加情報2】

今回は夏企画の一日目について紹介します！

1日目:被災地の過去を知る

～1日目の流れ～... もっと見る



1818人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

飯塚 淳平さん、Chika Ishiiさん、他26人

コメントする...

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」追加情報3】

夏企画の参加者まだまだ募集中です！

今までは通う夏休みを過ごしたいという方！この夏のひと時を気仙沼で過ごしてみませんか？

2日目:被災地の現在を知る... もっと見る



1808人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

小嶋 一さん、中野 真由美さん、他25人

シェア1件

コメントする...

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」追加情報4】

3日目:特別コンテンツ

海の幸を味わい尽くせ！気仙沼オリジナル丼を作ろう！！... もっと見る



1476人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

宮地 信忠さん、渡辺果奈さん、他26人

シェア1件

コメントする...

【夏企画「被災地の時を旅する4日間」追加情報5】

漁師さんと一緒に気仙沼のご飯を作る

スタッフの伊藤です！... もっと見る



4478人にリーチしました

いいね！ コメントする シェアする

宮崎 真一さん、熊谷 くらさん、他63人

シェア4件

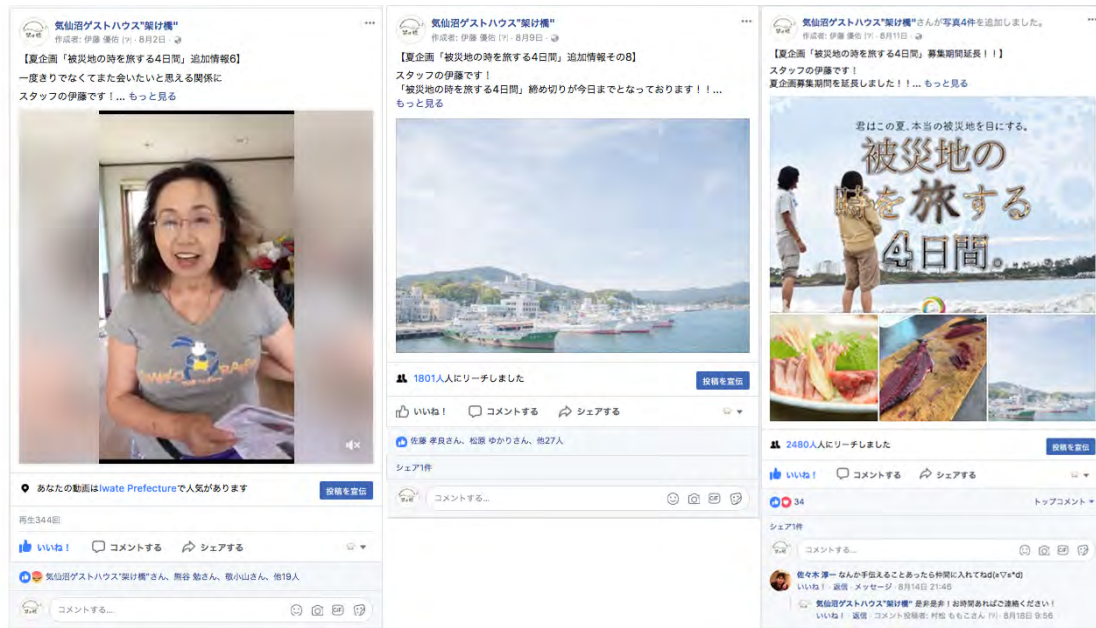
コメントする...



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

32 / 58 ページ



企画前の投稿数 9 回 平均いいね数 39 回

- ・受付開始時はいいいね数 96 人と評価が高かったがその後減少傾向にあった。
- ・コンテンツの説明の中で最もいいね数が多かったのは、漁師さんとご飯。気仙沼ならではの楽しいコンテンツは魅かれる可能性が高い。
- ・参加者の 53% は facebook から (アンケートより)。リピーターの集客に一番効率が良い。2370 人フォロー

(3) Twitter

企画前の投稿数 4 回 平均いいね数 5 回

- ・twitter を見ての参加者は 0 人だった (アンケートより)。Twitter での効果は薄い
- ・フォロワー数が Facebook と比べて 829 人と少ない。Twitter で広報を行う場合はフォロワーを増やすこと

(4) メール

今までに架け橋に泊まった人対象に企画の告知をした。

- ・BCC によるメールは送信エラーになる可能性が高く何人にリーチしたかわからない。
- ・メールによる参加者は 0 人だった。

(5) 協力者のシェア

- ・今村陽介の紹介が一番多かった。紹介での参加は 31% と次点で集客率がある。
- ・協力者へのシェアはリピーター外の人にも見てもらえる機会があるので新規の人を誘うには効果的。



(6) 喜多のシェア

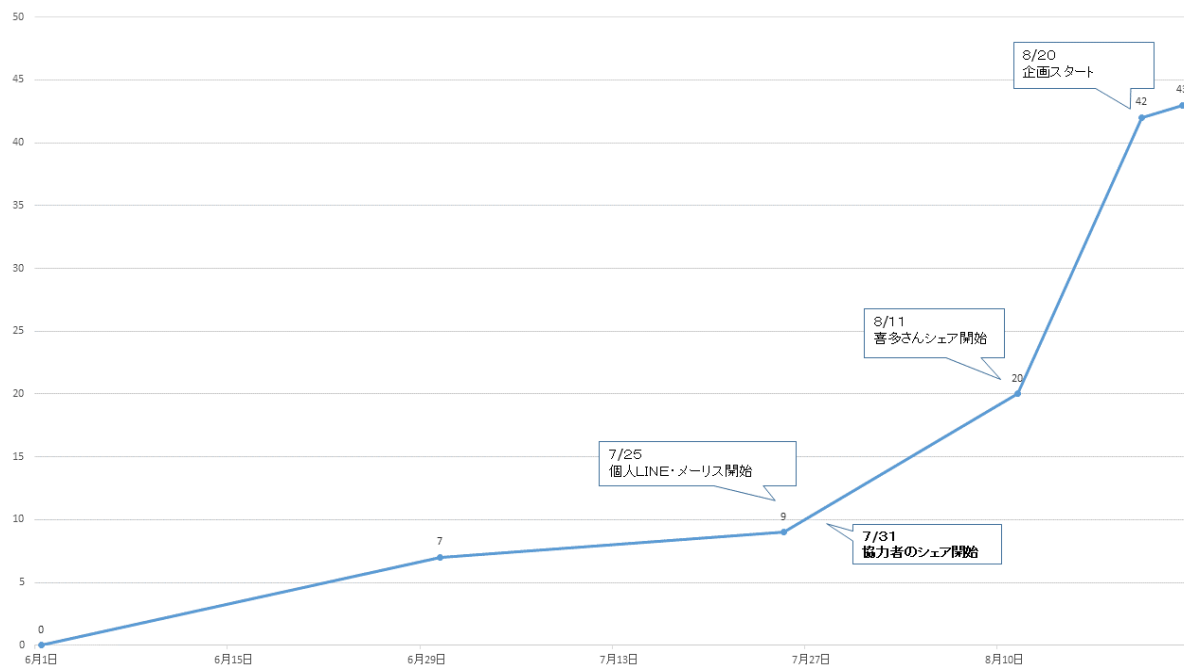
- ・実際に喜多の投稿で参加した方が多かったが紹介者の欄で書いた人が少ないので正確な人数は未定
- ・喜多の投稿が一番集客率が高かったので今後も広報の依頼ができると理想的。



(7) 個人連絡

・紹介者の欄に架け橋メンバーの名前が全体の23%。地道ではあるがメールより、リピーターの集客が狙える。

2.2.9 参加者推移



キャンセル者6名、当日欠席3名

第1ターム	全日参加：3名	2日間参加：1名	1日参加：4名
第3ターム	全日参加：9名	1日参加：4名	
第4ターム	全日参加：7名	2日間参加：1名	1日参加：4名 インターン：1名
第5ターム	全日参加：9名	1日参加：2名	インターン：4名
第6ターム	全日参加：4名	2日間参加：1名	1日参加：1名

・8月に入ってから予約者が増えている。大学生の夏休みが8月から始まることから、8月に入ってから予定を立て始めると考えられる。

・第6タームは人数が少なかった。参加者の話を聞くに、9月20日頃から大学が始まるころが多い。企画で人が集まる期間は9月上旬から中旬にかけてである。

・Facebookの投稿だけでは集客効果は小さい。他の人へシェアの依頼や個人連絡をすることが効果的である。

・喜多のシェア開始から参加者が大幅に伸びた。集客の半分近くは喜多の影響だと考えられる。

・企画中の投稿は集客にはあまり集客に影響がなかった。



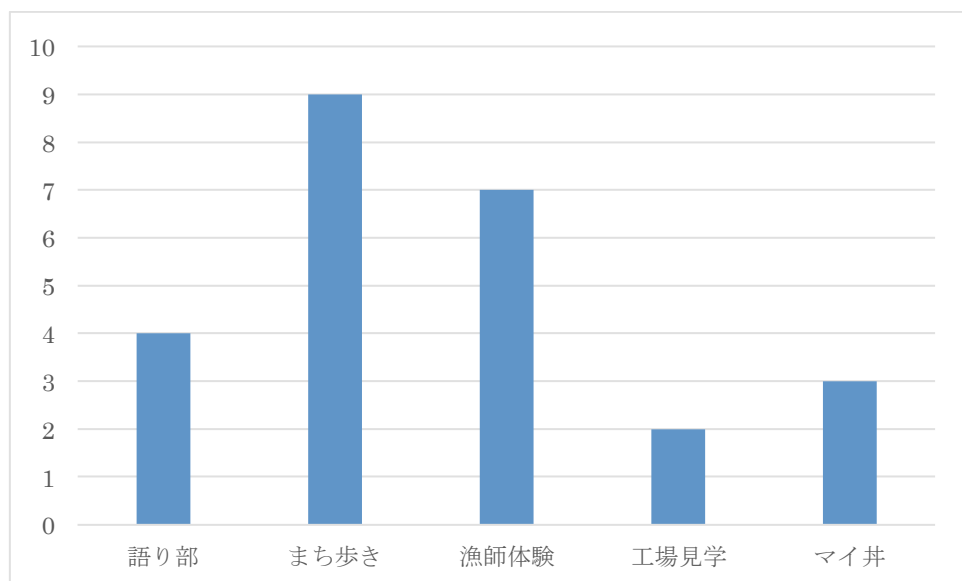
(1) 企画の費用について

- ・参加費に含まれない費用がどれだけかかるかわからず心配させてしまったことがあった。どこにお金を使って、どこのお金を用意してもらうかをあらかじめ提示しておく必要がある。
- ・参加費が高くて参加できないという声があった。

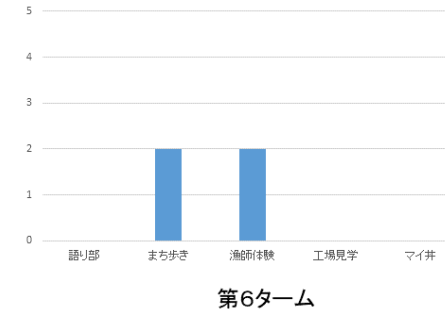
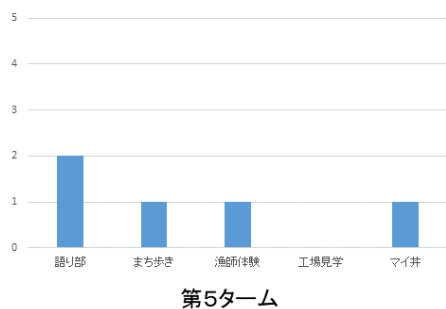
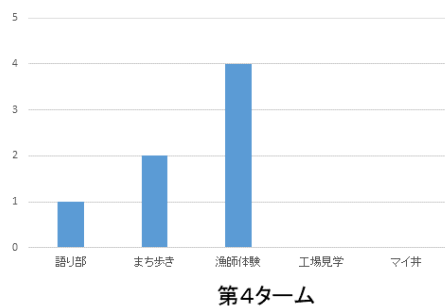
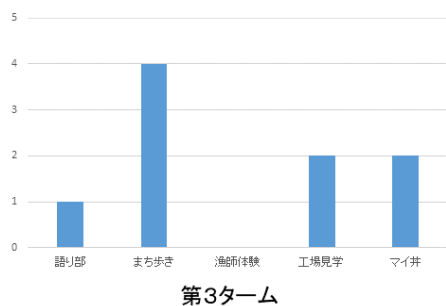
(2) 企画内容の反省

一番良かったと思う企画に○をつけてください。

全体



ターム毎



1) 語り部

- ・子育てママからのお話は新鮮で好評だった。
- ・ちびっこがいるのは場が和んでいいが、その後ご飯を食べる場合は、話をまわす人、ご飯を作る人、子供の面倒を見る人で最低3人は必要である。
- ・おっぴちゃんなど簡単な方言は理解できるができるだけ標準語の方がよい。
- ・気仙沼のマップ、当時の写真を使うことでより理解が得られる
- ・途中で質問を入れるのは難しいから最後に。質問はしづらいのでスタッフから。
- ・ご飯を食べるときは語り部さんのところにスタッフが入り話を広げる。
- ・語り部さんの配慮。話し続けることがつらいかを気にするのとフィードバックを。
- ・2人の視点から当時のお話をするのは珍しくてよい。
- ・人数が多いときはご飯を食べるときは2テーブルで。休憩やご飯の準備の手伝いをさせることで拡散させる。
- ・参加者は地図を追うのが難しい。マーカーなどで印をつけると目で追いやすい。
- ・地元の方から地元の料理の説明があったのが良かった。
- ・語り部に使われた写真はテーブルに出して常に見えるように。

2) まちあるき

- ・コンテンツは良かったが、スケジュールを詰め込みすぎた。時間が押してしまうことが多かったのでコンテンツを減らすとともにコンテンツ毎に15分くらい余裕を持つと良い。
- ・多くの人と関われるのは良かったが、その分人と関わる密度が薄かったという声もあった。
- ・スタッフ全員がタイムスケジュールを把握する事。
- ・歩きながら全員に話を伝えることは難しい。部分部分で立ち止まって話す。
- ・沈黙は作らない。会話には入れていない人のところに行き声をかけること。
- ・カツオを買うときは発砲を持ってくると300円安くなる。
- ・地元の人に震災のことだけを話させない。楽しくお話することも大切。
- ・向洋高校、慰霊碑は前半に。楽しい雰囲気を壊してしまう。
- ・まち歩きで出会った人ともう一度会うチャンスを作る。
- ・こまめにトイレアナウンスを。
- ・人数が多すぎるときは2つに分かれる。地元の方の家は8人が限界。

3) 漁師体験

- ・漁師体験は作業よりも生き物と触れ合った方が印象に残りやすい。
- ・みんなで調理はけが人が出る場合もあるので、ばんそうこうやゴム手袋などを用意しておくとうい。
- ・最初に漁師さんのお話をしてもらおう。相手が誰だかわからない。
- ・藤田さんは予定を忘れがちなので注意。
- ・ご飯を作るときは孤立している人を作らない。
- ・地元の方と一緒に歩けたらなおさら良い。
- ・漁師さんに話を振りやすくするために、スタッフは近くにいるべき。



4) 工場見学

- ・工場見学はマルトヨさんの話が印象に残ったという人が多かった。
- ・アンケート結果から工場見学の人気はあまり見られなかった。中には、工場見学の時間がいかなかったと言っている人がいたので今後は要相談。
- ・マルトヨさんの話が重かった。そういう場合は事前に連絡を。
- ・話を広げる人、写真を撮る人で2人いると理想的。
- ・事前に何う工場の資料があると良い。公式サイトを共有するのも良い。

5) マイ井

- ・歩いて回ることによってターム内の中が深まり、楽しんで気仙沼の食材を知ることができた。
- ・人数が少ないと協力して買うことができない。ある程度人数がいないと成立しない企画。
- ・店の定休日を確認する。休みなのに参加者を向かわせてしまった。
- ・冷凍系、捌く系は早めに帰ってきてもらう。
- ・2日間あるきっぱなしだと疲れてしまう人がいる。事前にレンタルサイクルの提案を
- ・食材を買うのと同時に夜に飲む飲み物を買ってきてもらうと良い。
- ・マイ井マップの評判が良かった。手作りのものがあると感謝の思いが増える。
- ・内湾辺りの説明もプログラムに含めると良い。内湾は気仙沼を直に感じられる。
- ・マイ井の食材をまわるだけでなく、気仙沼のまちの雰囲気も楽しんでもらう。(シャークミュージアム、商店街の案内もする)

6) 活動全体

- ・参加者全員が活動に満足してくれて結果的には大成功だった。
- ・全体的に歩くことが多かったので疲れてしまう人がいた。休めるような時間も必要である。
- ・名札は全員にお願いする。スタッフ、インターンも。
- ・交通の関係で18:00スタートでは間に合わなかった人が数名いた。開始時間は18:30が望ましい。
- ・早く来すぎた人は、暇にしている人が多かった。バスの時間から集合時間は17:00からでも問題ないのでは。
- ・事前に連絡がなかったので不参加かわからない人が発生した。事前連絡を3日前にする。
- ・アンケートはその日の夜に書いてもらう。帰るまでにだと回収率が悪い。
- ・参加者以外のお客さんにはあらかじめ企画を行うことを伝えておく。
- ・参加者の誕生日チェック
- ・リピーター率を上げるために熱がこもっているうちにリピーター向けの企画を。
- ・SNSの投稿に映ってもいいかの確認は1日目のうちから。最初にアナウンス。
- ・洗濯機の乾燥が間に合わない。コインランドリーに連れていく。
- ・持ち物に傘を追加する。
- ・始まるまでの時間が居づらいという声があった。場に溶け込めるように参加者同士をつなげる。
- ・お話をするテーブルと震災の資料を見るテーブルに分ける。



- ・夜に地元の若者と交流できる機会があると良い。

表層目的：移住者に楽しい夜を。

深層目的：移住者と参加者の間で仲が深まり、真面目な話やその後の関係ができる。

声かけ対象：UIJ ターン者で同世代。

コンテンツの強制性：やっぱり参加者さんは同世代と会いたいので、事前にお酒あげるアナウンスなしで来たらあげる。

- ・インターンには事前に企画 mtg を行うべき。どうしていいかわからないという声があった。
- ・全体のスケジュールを事前メールでもっとはっきりと。スケジュールを知りたいという声が多かった。

2.2.10 期間中の差し入れ

第1 ターム

くらうち：ほたて、ほや

近藤さん：シュークリーム

横田屋本店：味付け海苔

第5 ターム

カネカシーフーズ：めかぶ商品

第6 ターム

ほてい：ふかひれスープ

2.2.11 企画・期間中・企画後のスタッフ側の動き

(1) 2017 年 5 月 2 日：企画運営 mtg（伊藤、小出、村松、田中）

下記の通り、立ち上げ mtg を行った。

==

議事録

【ターゲット】

1. 学生団体（現在、約 11 団体）：すでに企画が決まっているので調整してあげる
2. リピーター：観光、一度会った人にもっかい会える、同窓会
3. 新規の大学生、高校生：全部やってあげる
4. 飛び込み宿泊客：適当に対応
5. 外国客（new!）

【お客さんがしたいこと】 【地元からのニーズ】

1. イベントボランティア
2. ちょいのぞき気仙沼



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

39 / 58 ページ

3. イベントの紹介
4. 現地視察、リアスアーク美術館
5. 語り部から話聞く
6. 地元の人との交流
7. 自動車学校の合宿
8. まちづくりに参加したい
9. 美味しいもの食べたい
10. BBQ と花火したい、スイカ割りしたい
11. 海で遊びたい
12. 水産加工屋さんを見れる、工場見学
《復興に向けて何をしているのかを感じることができる》
13. 子供と遊びたい
14. 漁師体験（ホタテ、ホヤの収穫と BBQ）6,000 円、10 名まで《気仙沼の魅力を伝えやすい、体験しやすい》
15. 階上の街歩き、みんなで町歩きマップを作る、階上散歩
16. スプーンづくり、シーキャンドルづくり、mt テープづくり、染物づくり、防災食品を美味しく食べる、カツオ解体ショー（ものづくり、気仙沼）
17. 魚市場
18. 気仙沼カメラ女子
19. フリー（1 日間）
20. サップ体験

【評価基準】

- ①リピーターになってくれそうか
- ②実現可能性：プリウスの問題など
- ③費用対効果：団体客は多い。
- ④来年も同じことができそうか
- ⑤架け橋の強みを生かしているか（拡散力、大学生との繋がり）

【似た事例】

浜わらすはキャンプするらしい！（テント、アウトドア）
底上げキャンプ（自己啓発 系）
唐桑丸キャンプ（みんなで DIY、海に飛び込む）

【決定事項】

1. 団体宛に活動できることを連絡
この夏、架け橋が贈る「震災×漁師体験？」！

ターゲット：被災地に興味がある新規の大学生、高校生

企画メイン（強制）：漁師体験

企画サブ（強制）：工場見学、階上散歩、語り部、魚市場

企画オプション（フリー）：リアスアーク、ものづくり系、大島の海水浴場、ちょいのぞき気仙沼、その他

保留：現地視察

参加費：20,000 円（宿泊費 10,500 円、漁師体験 6,000 円、その他 3,500 円）

日程：8 月中旬から 9 月下旬の 3 泊 4 日

定員：5~10 名（ベスト 7 名）

雨プロ：

==

5 月 3 日から：地元企業との調整

6 月 1 日 広報開始

7 月 25 日：メールを送る

【広報戦略】

1. リピーター獲得

手法：メール

期間：1 ヶ月半～2 ヶ月前

過去の全宿泊者にメールにて広報。先行予約のロイヤリティ

リーチ：2,650 人、CV：10 人、CVR：0.3%、コスト：2 人工、CPA：2,000 円

実績：昨年の参加者から 2 名参加

2. 大学チラシ配布

手法：各地の抱えの学生団体にチラシ配布

期間：大学テスト前 1 週間

Project 架け橋、Volo など九大、東海大、熊本大で配布

リーチ：1,000 人、CV：5 人、CVR：0.5%、コスト：10,000 円（チラシデザイン、印刷、郵送）、CPA：2,000 円

実績：？（紹介欄にチラシとはないため）

3. 関係者の告知協力

手法：直接メッセージ

期間：1 ヶ月前～企画開始



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

41 / 58 ページ

田中、喜多さん、気仙沼観光協会、各学生団体向け連絡

リーチ：100,000 人、CV：15 人、CVR：0.015%、コスト：5 人工、CPA：3,333 円

実績：2 名(内 1 名は田中の投稿シェアを見て応募)

4. インフルエンサーの告知協力

手法：直接メッセージ

期間：1 ヶ月前～企画開始

メイカーズ、その他連絡

リーチ：200,000 人、CV：15 人、CVR：0.0075%、コスト：2 人工+謝金 15,000 円、CPA：2,333 円

実績：1 名(メイカーズ 9 人の協力のうち 1 人の紹介者名)

5. FB、Twitter

手法：Twitter 毎日、FB3 日に 1 回、リピーター囲い込みのため過去の活動に参加した地元の方にビデオ出演

期間：随時

リーチ：100,000 人、CV：15 人、CVR：0.015%、コスト：5 人工、CPA：3,333 円

実績：？

6. 締切設定による迷っている子の囲い込み

手法：参加したいが迷っているという多数に対してスケジュール早期獲得の為に締切を早期に設定。予約を急がせる。一次締切を 8 月 9 日に設定

期間：一次締切前日

リーチ：20 人、CV：7 人、CVR：35%、コスト：1 人工、CPA：1,428 円

2.2.12 インターンについて

(1) インターン参加者

伊藤 誉之 第 4 ターム、第 5 ターム

齋藤 芽依 第 5 ターム

岡 颯紀 第 5 ターム

阿部 愛里 第 5 ターム

(2) インターン生にアンケート

インターン生を対象にアンケートを行った。

アンケート回答者 2 人

1) 架け橋のインターンに参加してみたの感想

・気仙沼で暮らす人々と接したり、おいしい海の幸をはじめとした魅力的な海産物に触れたりすることで、「この場所にもう一度帰ってきたい」、「たとえ外からでも、ここを応援したい」というような思いを抱くようになりました。

・参加者同様インターンにも学びがたくさんあって参加してよかったと思っている。

2) 架け橋のインターンはもっとここを直した方がいいというアドバイス

・ツアーの趣旨や大事にしたいことなどを共有したうえで活動に入れると、何をしたらいいのかが、明確になるような気がします。

・日ごとのタイムテーブルがあれば、参加者さんの質問に答えられたかも。

3) 気仙沼に移住したい度何パーセント？

・インターン前：0%→インターン後 70%

・インターン前：70%→インターン後 80%

2.2.13 広島大阪東京大同窓会

今までに架け橋に泊まりに来てくれた方を対象に、広島・大阪・東京で同窓会を行った。

また、「被災地の時を旅する4日間」の参加者と2018年春の企画について考える企画会議を行った。

(1) 広島

1) 広島企画会議

a) 参加人数 2人

b) アイデア

- ・卒業旅行で気仙沼はあまり人が来ない
- ・新規の人はいろんな人の話を聞きたい、2回目以降は地域の人とより密に
- ・震災当時のお話は2名程度が限度、前向きな話なら大丈夫
- ・はんちゃんチルドレンの成長が知りたい
- ・同窓会のようにリピーターが集まれる企画（花見等）
- ・船釣り→釣った魚でマイ井
- ・大学卒業後院進
- ・友達を誘って連れてくることも可。でも院行くから一人で行くかも
- ・ほかの地元の人の話を聞きたい
- ・団体は自分たちでコンテンツを組んで東北に来ている→団体に営業
- ・船釣り
- ・ワカメ、めかぶの切り取り
- ・イチゴを食べたい（いちご狩り、喫茶マンボ）



2) 広島飲み会

a) 参加者 5 名

b) うち夏企画者 3 名、インターン 1 名



(2) 大阪

1) 大阪企画会議

a) 参加人数 3 人

b) アイデア

- ・ 来年大学 3 年生、福島での活動経験あり
- ・ 目的を参加者側にあらかじめ聞いてしまう。
- ・ 初めての人はいろんなところを周りた
- ・ 経済的な理由が・・・遠くてなかなか行こうと思えない人が多い
- ・ まじめなところと楽しむところのメリハリが大事
- ・ 学生団体プラン、惇さんの営業
- ・ 地元の方と密に接したい。理想は現地で活動する自分たち世代の人
- ・ 夏企画よりももっと期間が欲しい。5 日間くらい
- ・ 勉強をメインに！もっと気仙沼のことを知りたい。
- ・ 町の雰囲気を知ってほしい→リフレッシュできる場所
- ・ 地元の人と繋がっているとまた行きたくなる。
- ・ ボランティアはやらない方がよい→就活目的、魅力が伝わらない
- ・ 企業向けプラン。企業の人に現状を伝えたら復興に力を貸してくれるかも
- ・ お世話になる人の事前試料が欲しい
- ・ まち歩きはもっといろんな人と関わりたかった。純一さん大和田さんの話が印象的
- ・ インスタで広報を
- ・ 初めての人がまた行きたいと思ってくれることが大事
- ・ 社会人はあまり被災地に行こうと思わない
- ・ 一人の人と深く向き合えばまた会おうと思える



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

44 / 58 ページ

- ・人の合う合わないはある。それは仕方のないこと

2) 大阪飲み会

- a) 参加人数 7人
- b) うち夏企画参加者 5人



(3) 東京

1) 東京企画会議

- a) 参加人数 8人
- b) アイデア

- ・卒業旅行は遊びたい。みんなで行くのは少し違うような…
 - ・大和田さんと飲みたい
 - ・ワカメは来たら感動するけどワカメで釣るのは難しい
 - ・就活のネタになると良い。就活は3月スタート
 - ・インターンなど就活のネタになることがよい
 - ・50代～70代の人と飲みたい（としおさんみたいな人）
 - ・インターン：社会人ばい
 - ・ベンチャー、社会課題、NPO、まちづくり（2週間～4週間程度）
 - ・インターンはマイナビリクナビで見つける
 - ・ふかひれ体験→知名度があるが都内ではあまり見ない
 - ・親に旅行プレゼント（親は3月ごろ暇）親を被災地に連れて行こう
 - ・旬の食べ物を食べられると行きやすい
 - ・単発派遣はやめた方がいい
- ①気仙沼に来るまで時間がかかる。一日の為に行くのは行きづらい
- ②単泊はリピーターに繋がらない

2.2.14 東京飲み会

- a) 参加人数 21 人
- b) うち夏企画参加者 10 人



2.2.15 参加後の参加者の投稿

企画後に企画について投稿している人は3名と少なかった。

原因として、普段から Facebook に投稿する人が少なかったからだと考えられる。



2.3 女子旅

2.3.1 目的

2018年3月11日。東日本大震災から丸7年を迎えます。気仙沼市では仮設住宅の解体も始まり、今を生きるための「復旧」がようやく終了、未来へ向けた「復興」そして「まちづくり」へと進んできています。メディアに取り上げられることも少なくなり、全国の人々のイメージは未だに「被災地」「悲しい」「かわいそう」という負のイメージで止まっています。

将来の気仙沼がキラキラわくわくする街に復興するために、これから必要なのは悲しいではなく、楽しいです。気仙沼にはキラキラ輝く、女子の好きな宝の原石がたくさん眠っています。被災地ブランドから離れその原石を輝かせることで、気仙沼の将来は明るくなると思います。そこでまずは女子の目線で「被災地」ではなく、素敵な「気仙沼」を純粋に楽しんでもらうことを本ツアーのメイン目的とします。そして気仙沼で過ごす日々の中で、被災地としての気仙沼にも触れ、感じてもらうことも大事にしていきます。最終的には気仙沼で強く、優しく生きている「人」との繋がりを深めてもらい、気仙沼大好きなファンを増やし、素敵な気仙沼を発信してもらうこと、何度も足を運んでもらうことを目的とします。

最終的には今回の企画が必要があるか検討し、改善しながら2018年度以降も継続していきたいと思っています。

2.3.2 ターゲット

23歳の東京在住女子(社会人1年目)

オシャレに興味がある

被災地にはきたことがない、興味はあるけれど、足を運ぶまではいかない旅行好きな女子

2.3.3 ツアー詳細

(1) ツアー期間

第1ターム：3月2日～3月4日

第2ターム：3月6日～3月8日

第3ターム：3月16日～3月18日

第4ターム：3月30日～4月1日

2.3.4 参加費

2万5000円(実質経費 21300円)

宿泊費 7000円、魚市場見学 1000円、酒蔵見学 1000円、ワカメ 3000円、ポストカード 2000円、食事 1500円、3500円、入浴 1300円、マキさんヘアセット 1000円

2.3.5 スケジュール

- 初日 地元女子と一緒に架け橋でおしゃれごはん(担当：高橋えり)
- 2日目 内湾巡り「人巡り、食巡り」
ヘアセット(畠山真樹)
魚市場(担当：ニシヤント)
内湾まちあるき(担当：熊谷俊輔)
酒蔵見学(担当：菅原ひろき)
よるごはん(斉吉商店)
- 3日目 わかめ見学(蔵内、花浜、藤田商店)
ランチ(海洋館)
思い出ポストカード作り(尾形綾美)

2.3.6 参加者内訳

参加人数 26人 (1日、2日参加も含む)

全日参加 21人

参加者平均年齢 21.46歳

第1ターム 全日参加：5名

第2ターム 全日参加：5名 インターン1名

第3ターム 全日参加：7名 インターン1名

第4ターム 全日参加：4名 2日参加：2名 1日参加：1名

広報

Facebook	喜多さんの投稿	5
	村松の投稿	3
	田中の投稿	2
	架け橋の投稿	1
	その他(シェア)	1
夏企画参加者のLINEグループ		1
友人からの紹介		4
テレビ		2
未回答		2

2.3.7 アンケート結果(回答者 21 名)

(1) 架け橋でおしゃれごはん(担当：高橋えり)

5 点満点中 5 点

・えりちゃんのごはんすごく美味しかったです！丁寧に作ってくれたのが伝わってきて幸せな気持ちになりました！

(2) ヘアセット(畠山真樹)

5 点満点中 5 点

・気仙沼で自分で何かを作る、自分の世界観を発信するということをしている若い女性の皆さんにお会いできて刺激的でした！

(3) 魚市場(担当：ニシヤント)

5 点満点中 4.88 点

・前回来た時も同じ場所を歩いたけど、今回はガイド付きだったので、詳しいお話が聞けて良かったです。

・海外から来た方の気仙沼の魅力の話はとても説得力があって、ニシヤントのキャラクターもとても素敵でした！

(4) 内湾まちあるき(担当：熊谷俊輔)

5 点満点中 4.94 点

・観光に興味があったので、震災後気仙沼で改めて観光に向き合っている姿が印象的でした。

・気仙沼の様子をよく見れたし、熊谷さんの案内も面白かったです。自分で実際に歩いて見るのは本当に印象に残るし、良かったです。

(5) 酒蔵見学(担当：菅原ひろき)

5 点満点中 4.94 点

・気仙沼ならではの調合や作り方を知り、違う視点で気仙沼の文化を知れました！

・日本酒のイメージが変わりました！

(6) よるごはん(斉吉商店)

5 点満点中 5 点

・気仙沼の海の幸の美味しさを再確認できたとともに、おかみさんをはじめとするスタッフのみなさんが明るくてとても良い場所でした。

・震災の話から旦那さんとの馴れ初めの話も含めて、気仙沼を表していると思いました。

・斉吉さんの奥さんのお話、とても感動しました。命の大切さを改めて感じました。

・ハーモニカがとっても美味しかったです！今度は大切な人と行きたいです。

(7) わかめ見学(蔵内、花浜、藤田商店)

5 点満点中 4.94 点

・めかぶを茎のまま食べるのがとても斬新で面白かったです！



(8) 思い出ポストカード作り(尾形綾美)

5 点満点中 4.94 点

- ・ 気仙沼を最後に振り返りながら楽しく作れたのでとても良かったです！またアイデアが素敵だなと思いました！またお家でもやって見たいと思います！（インスタにあげています！）
- ・ 旅行の最後ってお土産を買って帰るって流れが多いけど、自分の手で思い出を形にできたことがすごく嬉しかったです！みんなで旅を振り返る、ゆっくりした時間があってとても良かったです。ポストカードにする内容もみんな違って面白かったです！

2.4 運営組織

特定非営利活動法人 CloudJAPAN

気仙沼ゲストハウス架け橋常駐スタッフ

○ 代表

村松ももこ（2017 年 11 月～）、田中惇敏（～2017 年 10 月）

○ 現場

田中惇敏、村松ももこ、小出悟（2017 年 6 月～）、伊藤優佑（2017 年 5 月～12 月）

○ 絵本カフェ架け橋スタッフ（2018 年 3 月末現在）

半沢裕子（代表）、尾形幸、川元悠依、佐藤華菜、熊谷春美、鈴木和海



3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業

3.1 FAAVO 宮城 運営

クラウドファンディングサイト FAAVO は、地域に特化したクラウドファンディングと銘打ち、各地域の団体が行っている。NPO 法人 Cloud JAPAN は、その宮城県版（FAAVO 宮城）の運営をし、アントレプレナーの応援を行っている。

昨年度は運営元団体の変更（FAAVO→campfire）に伴い、KIKO の成功支援にとどまった。



KIKO の FAAVO においてはクラウドファンディングを行なった結果、3,287,000 円を獲得することができた。ここに重ねてご支援をいただいた皆様に感謝の意を伝えたい。

4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業

NPO 法人 Cloud JAPAN 理事・喜多恒介氏の Facebook サイトにおいて有益な情報を掲載した。

Facebook「喜多 恒介」(30,301 フォロー、24,983 いいね！)



5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業

教育支援活動として全国での講演活動と気仙沼での家庭教師を行なった。

5.1 講演活動

Cloud JAPAN 代表理事の田中の講演活動を整理する。

タイトル	日時	場所	対象	人数
キラキラ生きる	2017 年 4 月 22 日	神奈川	日本の大学生、社会人	約 30 人
TOMODACHI	2017 年 8 月 4 日	気仙沼	アメリカ・日本の高校生	約 30 人
日独交流事業	2017 年 9 月 20 日	気仙沼	ドイツの大学生、社会人	約 20 人
赤穂高校	2017 年 9 月 29 日	気仙沼	日本の高校生	約 30 人
CBN20 周年記念	2017 年 12 月 2 日	東京	CBN 会員	約 30 人
千葉商科大学	2018 年 1 月 18 日	千葉	日本の大学生	約 60 人
チーム北九州	2018 年 2 月 11 日	福岡	朝倉支援団体のスタッフ	約 30 人
アメリカ交流	2018 年 3 月 21 日	気仙沼	アメリカの大学生と地域の皆様	約 40 人

5.2 家庭教師

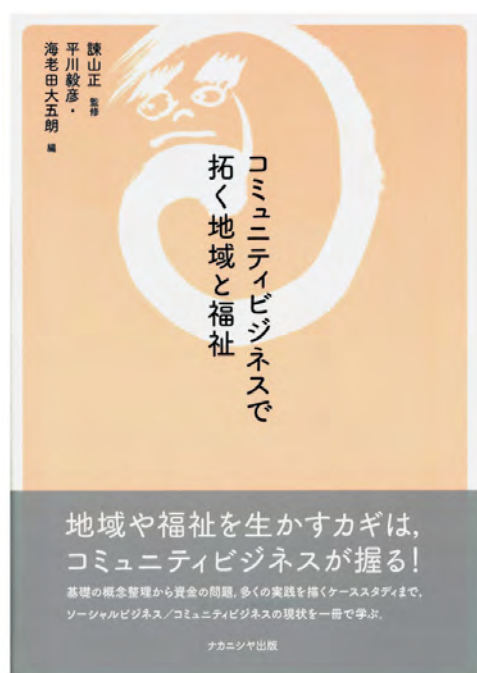
気仙沼の高校生向けに 2017 年 4 月から 2018 年 3 月まで週 2 回の家庭教師を行なった。

人数と構成（昨年度）：高校 3 年生 1 名

6. 取材対応

6.1 書籍出版

当法人の活動全体を紹介していただく形で「コミュニティビジネスで拓く地域と福祉」（ナカニシヤ出版）から出版されました。



6.2 新聞、メディア

三陸新報（2017 年 5 月 31 日）

ソトコト 6 月号、ハタフリ、毎日新聞、K-net（2017 年 11 月 28 日）

三陸新報（2018 年 1 月 28 日）、岩手日日新聞、産経新聞（1 月 20 日）

ソトコト 2 月号、ランドネ 4 月号（2018 年 3 月 1 日）

大阪 FM ラジオ（3 月 1 日）

東日本放送（3 月 3.4 日）

NHK 仙台（3 月 4 日）

西日本新聞（3 月 4 日）

フジテレビ（3 月 5 日）

NHK 仙台（3 月 5 日）

東北放送ラジオ（3 月 7 日）

ダイヤモンドユカイ NHK ラジオ（3 月 7 日）

日本テレビ「シューイチ」（3 月 17 日）



7. 収支報告

7.1 平成29年度活動計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人Cloud JAPAN

科目	金 額 (単位: 円)		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	160,000		
賛助会員受取会費	0	160,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	713,823	713,823	
3 受取助成金等			
受取民間助成金	660,000		
受取公的補助金	7,670,000	8,330,000	
4 事業収益			
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場づくり支援事業収益	691,000		
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場運営事業収益	7,623,987		
ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業収益	0		
地域で活動するソーシャルアントレプレナーにかかわる情報発信事業収益	0		
ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者の育成および事業促進のための教育支援事業収益	526,706	8,841,693	
5 その他収益			
受取利息	11		
雑収益	0	11	
経常収益計			18,045,527
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	7,672,351		
法定福利費	1,839,289		
退職給付費用	0		
福利厚生費	46,002		
役員報酬	0		
人件費計	9,557,642		
(2) その他経費			
事業通信運搬費	445,435		
事業地代家賃	1,573,600		
事業水道光熱費	423,746		
事業修繕費	73,698		
諸謝費	846,500		
事業保険料	44,160		
事業消耗品費	2,186,066		
売上原価	316,828		
事業広告費	407,196		
事業旅費交通費	71,680		
その他経費計	6,388,909		
事業費計		15,946,551	
2 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	0		
給料手当	88,193		
雑給	0		
人件費計	88,193		
(2) その他経費			
通信運搬費	4,384		
支払手数料	14,411		
雑費	0		
その他経費計	18,795		
管理費計		106,988	
経常費用計			16,053,539
当期経常増減額			1,991,988
III 経常外収益			
固定資産売却益		0	
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
過年度損益修正損		0	
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増産額			1,991,988
当期正味財産増産額			1,699,288
前期繰越正味財産額			253,476
次期繰越正味財産額			1,952,764



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514
Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長瀬前林55番地3

55 / 58 ページ

7.2 事業別損益の状況

縦覧資料内「活動計算書類の注記」から「事業別損益の状況」を抜粋し掲載する。

(単位：円)

科目	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場づくり支援事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者が集う場運営事業	ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業	地域で活動するソーシャルアントレプレナーにかかわる情報発信事業	ソーシャルアントレプレナーおよびその関係者の育成および事業促進のための教育支援事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	160,000	160,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	713,823	713,823
3. 受取助成金等	0	7,670,000	0	0	0	7,670,000	660,000	8,330,000
4. 事業収益	691,000	7,623,987	0	0	526,706	8,841,693		8,841,693
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	11	11
経常収益計	691,000	15,293,987	0	0	526,706	16,511,693	1,533,834	18,045,527
II 経常費用								
(1) 人件費								
給料手当	0	7,408,300	0	0	264,051	7,672,351	88,193	7,760,544
法定福利費	0	1,839,289	0	0	0	1,839,289	0	1,839,289
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	46,002	0	0	0	46,002	0	46,002
雑給	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費計	0	9,293,591	0	0	264,051	9,557,642	88,193	9,645,835
(2) その他経費								
通信運搬費	0	121,435	324,000	0	0	445,435	4,384	449,819
地代家賃	0	1,571,400	0	0	2,200	1,573,600	0	1,573,600
水道光熱費	0	423,746	0	0	0	423,746	0	423,746
修繕費	0	73,698	0	0	0	73,698	0	73,698
諸謝費	300,000	546,500	0	0	0	846,500	0	846,500
保険料	0	44,160	0	0	0	44,160	0	44,160
消耗品費	0	2,134,338	0	0	51,728	2,186,066	0	2,186,066
売上原価	0	209,176	0	0	107,652	316,828	0	316,828
広告費	0	407,196	0	0	0	407,196	0	407,196
旅費交通費	0	71,680	0	0	0	71,680	0	71,680
支払手数料	0	0	0	0	0	0	14,411	14,411
その他経費計	300,000	5,603,329	324,000	0	161,580	6,388,909	18,795	6,407,704
経常費用計	300,000	14,896,920	324,000	0	425,631	15,946,551	106,988	16,053,539
当期経常増減額	391,000	397,067	-324,000	0	101,075	565,142	1,426,846	1,991,988

7.3 過去4年の助成団体のご紹介



助成団体名	助成年月	助成金額
みやぎ地域復興支援助成金	2017年6月	8,000,000円
公益信託 オオバまちづくり基金	2018年3月	480,000円
みやぎ地域復興支援助成金	2016年6月	7,860,000円
トヨタ財団国内助成グループ	2016年4月	1,730,000円
公益財団法人日本財団	2016年5月	890,000円
大和証券保健福祉財団	2016年5月	300,000円
みんな presents まち・むすび助成金	2016年4月	81,287円
東北労働金庫	2016年4月	300,000円
日本財団学生ボランティアセンター	2014年4月	300,000円
前川謝恩会	2016年12月	500,000円
住友生命 YJA2014	2014年12月	1,000,000円

その他、多くの方からのご支援によって活動を続けることができています。

8. 終わりに

私にとって今年度は準備の一年でした。Cloud JAPAN の理念である「世界中の人が誰かのために何かをする喜びを楽しみ続けられる世の中にする」この言葉をまずは自分自身が体現するために、その種を蒔く一年でした。来年度からは大きく羽ばたく飛躍の年として、この理念に賛同し一緒に喜びあえる仲間たちと共に、自らプレーヤーになり邁進できればと思います。引き続き Cloud JAPAN をよろしくお願いいたします。

(副代表理事 勝水 与茶)

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN 2017 年度報告書

2018 年 6 月 11 日 第 1 版 発行

2018 年 6 月 26 日 第 2 版 発行

〒988-0224 宮城県気仙沼市長磯前林 55 番地 3

特定非営利活動法人 Cloud JAPAN

代表理事 田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org

tel. 0226-29-6514 fax. 0226-25-7523



Cloud JAPAN

TEL 0226-29-6514

Address 〒988-0224 宮城県気仙沼市長磯前林55番地3

57 / 58 ページ

